

鉄道すごろく YAMAGUCHI

代表者 辻辺貴晃（創成 M1 年）
構成員 内海健（創成 M2 年） 國弘もも（創成 M2 年） 辻陽登（創成 M1 年）
原口光（創成 M1 年） 伊藤泰寿（創成 M1 年）
森竜佑（工学 B4 年） 中村優太（工学 B4 年）
笠原望夢（工学 B4 年） 新屋順平（工学 B4 年）
西家航大（工学 B4 年） MYAGMARSUREN CHINBAT（工学 B4 年）
中川雅治（工学 B3 年） 津守康介（工学 B3 年）

1. プロジェクトの概要

本プロジェクトは山口県内の鉄道を利用し、各鉄道駅をマス目に見立てたすごろくゲームを行うプロジェクトである。本プロジェクトでは、参加学生がチームに分かれてサイコロを振りながら、実際に移動して得点を競う。加えて下車した駅や付近を散策し、普段の生活では気づかない山口県の新たな一面を発見してもらう機会とする。下車した駅や付近を散策し、鉄道と徒歩のみで見つけた”魅力ある景色”の写真を撮影するという独自のルールを加える。また、地元の商会等に協力を懇願し、学生と県内産業の交流の機会となることを目指す。

2. プロジェクト着想の背景

山口県は自家用車の利用率が高く、県内の観光地に行く際の移動手段として多くは自家用車が利用される傾向にある。このような状況を反映して、山口県の観光・旅行情報サイト「おいでませ 山口へ」では、観光プランとして自家用車を利用したさまざまな観光プランが記載されている。一方で、山口大学の学生の自家用車の保有率は低く、工学部では約 40%、吉田キャンパスでは約 10%である。自家用車を保有しない学生が利用できる県内の観光情報は少なく、山口県の観光政策課が作成した鉄道情報サイト「やまてつ！」では、SL やまぐち号など各種列車や駅舎などの情報は点在するものの、鉄道を利用した観光プランは示されていない。このように、自家用車による観光が主たるものになっている山口県において、学生が気軽に利用できる鉄道による観光の良さに気付く機会をイベントと情報提供によって設けることで、楽しみながら山口県の魅力に気付くことが可能ではないかと考えました。

3. プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、4 つである。

- コロナ禍で外出を控えている学生に鉄道で県内を回遊し、魅力を発見する機会を提供する
- 公共交通で行ける鉄道を利用した観光地を新たに発見する。
- 普段観光を行う際にクルマの移動が中心となっている山口大学生に、公共交通（バス・鉄道）の利用する機会を設ける。
- ゴールとする地点（駅・駅周辺のお店・観光地）の魅力を知ってもらい共有できるようにする。

4. プロジェクトの魅力

本プロジェクトの魅力は3つである。

○学生が普段親しんでいるゲームを友人たちと現実の鉄道網を対象として楽しむ点

○偶然訪れることになった駅周辺を回遊することで、新たな県内の魅力に出会える点

（山口県の鉄道は便数が少ないため、必然的に移動の合間に駅で過ごす時間が多くなり、ゲーム性が高くなるほか、県内の魅力を感じる時間も確保できると考えられる）

○今年度は、様々な県内と企業・団体と連携を行うことで運営側も他者と協働してプロジェクトを実施することが出来る点

5. ゲームの流れ

ここでは、本企画の簡単な流れを示します。

ゲームの大まかな流れはテレビゲーム「桃太郎電鉄」と同じであるが、下図1にこのプロジェクト独自のルールを設けました。下車した駅で駅近辺を散策してもらい「魅力ある風景」を発見し撮影していただきました。



図1 鉄道すごろく YAMAGUCHI ゲームの流れ

6. 活動内容

ここからは下記の企画当日までのフローチャートに沿って活動内容を紹介していきます。

大きく2つの要素 1) 参加者について、イベント運営・広報 2) 企業との打ち合わせを軸として開催に向けて準備を行いました。

表1 企画開催までのフローチャート

	6月	7月	8月	9月	
参加者について	広報活動			説明会	
		参加者募集			
イベント運営・広報	ルールの整備		ゲーム構成確認	イベント開催	
企業との打ち合わせ		協賛企業募集			
	企業向け広報				協賛企業御礼周り

1) 参加者の調整、イベント運営・広報

8月

当初、9月に企画実施を考えておりましたが山口県のコロナウイルスの感染状況を踏まえて、参加者の安全を第一に考え、開催時期を12月11日（土）への変更を決定しました。

また、オープンキャンパスにて来訪した高校生に対して企画の説明を実施いたしました。



図2 オープンキャンパスにて企画説明

9月～11月

毎週1回程度、企画についての会議を実施しました。

ゴール地点を決定するアイデアや運営当日の係り決め等を実施いたしました。

ゴール地での参加者の歓迎を行うアイデム等の作成を行いました。



図3 企画会議の様子

12月11日（土）

鉄道すごろく YAMAGUCHI を開催することが出来ました。

本事項については次章で詳細に説明いたします。

12月11日～1月15日

参加者が発見した魅力ある風景について、フォトコンテストを実施いたしました。

投票フォームの作成と投票を募るチラシを作成し、山口大学全キャンパスにて掲示して頂きました。

2月

優勝したチームに景品の贈呈会を山口大学吉田キャンパスにて実施いたしました。



図4 景品贈呈会

2)企業との打ち合わせ

今年度の新規性として「県内産業との協働」をテーマに企画を実施いたしました。

本項では、企画でご協力いただいた企業様と行った事業について記載いたします。

10月

昨年度同様、JR 西日本様へ本企画の説明と企画当日に参加者が駅構内でサイコロを振ることなどを告知いたしました。また JR 西日本様から参加者全員に向けた景品を頂き、企画当日新山口駅旧待合室を本部として活用させていただけることになりました。新山口駅に本部を構えることで、不測の事態（鉄道が止まる）にも効率的に対応できることが可能となりました。

11月

小野田駅前「ぼんの時間」様にご協力いただきまして、小野田駅を訪れた参加者に対してドリンクのサービスを実施して頂きました。打ち合わせを行い、ご協力して頂ける内容の協議を実施いたしました。



図5 企画当日に向けての打ち合わせ

12月11日

企画当日は、小野田駅をゴールしたチームに温かい歓迎とドリンクのサービスを実施しました。12月の企画中では、また、当日歓迎を受けた学生さんからは「また行ってみたい」というご意見を頂きました。



図6 サービスを受ける参加者（@ぼんの時間（小野田駅））

1月

その他の事業者との連携については、宇部市近辺で事業されている事業者様に協力を依頼して優勝チームへの優勝景品を頂くことが出来ました。ご協力いただいた事業さんについて、河村酒店様、ジェリーズポップコーン様、楠クリーン村様（宇部市）から商品を頂きました。



図7 頂いた景品

7. 企画当日について

12月11日

鉄道すごろく YAMAGUCHI を開催いたしました。参加者は、5チーム計21名でした。

各チーム8時に新山口駅を出発して丸一日ゲームを楽しんでいただきました。

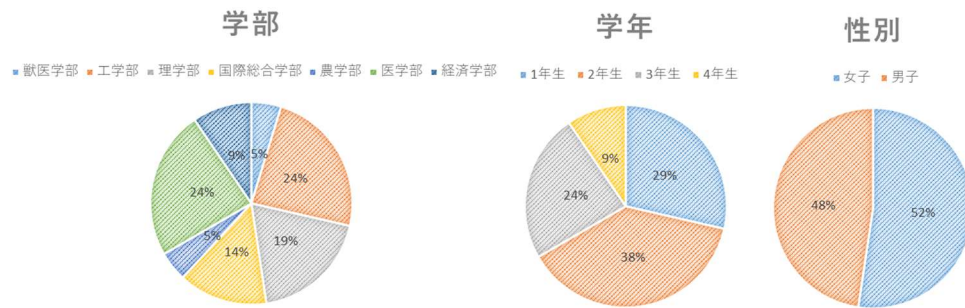
構成員については、①新山口駅でのチームの管理②ゴール地での参加者の歓迎の2チームに分かれて企画を運営いたしました。

参加者についての情報

参加学生の所属について、女子11名、男子10名でした。

学年については、1年生6名、2年生8名、3年生5名、4年生2名でした。

学部については、工学部・医学部5名、理学部4名、国際総合科学部3名、経済部2名、獣医学部・農学部1名と様々なキャンパスの学生さんが参加して頂きました。



駅についての情報

◆ 目的地

吉見駅（下関市）⇒阿知須駅（山口市）⇒光駅（光市）
⇒小野田駅（山陽小野田市）⇒湯田温泉駅（山口市）⇒新山口駅（山口市）

◆ スペシャル駅（到着すると 1000pt もらえる）

美祿駅・川棚温泉駅・床波駅・神代駅



図 8 鉄道すごろく YAMAGUCHI 参加者



図 9 企画当日の構成員



図 10 ゴールしたチーム



図 11 路線図

参加者の移動・写真についての情報

- ◆ 総下車回数 50 回
- ◆ 訪問駅数 25 回
- ◆ 撮影した写真の枚数 192 枚

表 2 訪問駅 一覧

新山口駅	小野田駅	新下関駅	幡生駅	吉見駅	小串駅
黒井村駅	福江駅	厚狭駅	宇部駅	嘉川駅	埴生駅
長府駅	阿知須駅	綾羅木駅	防府駅	島田駅	岩田駅
光駅	下松駅	本由良駅	美祢駅	厚東駅	富海駅
湯田温泉駅					

8. 写真コンテストについて

企画終了後、写真投票のための google form を作成しました。

約一か月間、県内多くの方に投票を呼び掛け、各自が「魅力ある風景」について投票していただきました。吉田キャンパス・常盤キャンパス・小串キャンパスにてポスターの掲示を行っていただきました。昨年度の総数 107 名を超える 165 名の方に投票にご協力いただきました。



図 12 掲示していただいたポスター



図 13 写真コンテストの結果

9. アンケート結果

イベント事後に行ったアンケート結果について記載します。

参加者 21 名に対して 17 名の方がアンケート調査にご協力いただきました。

調査した項目は下記通りです。

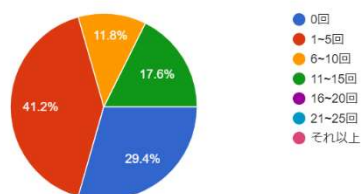
表 3 アンケート項目一覧

質問項目	選択肢
Q1 所属チーム	回答式
Q2 鉄道の利用頻度（1 カ月当たり）	回答式
Q3 企画が楽しかったか？	1:面白くなかった～5:面白かった
Q4 どの要素が楽しかったか？	複数回答
Q5 鉄道の待ち時間について	1:退屈だった～5:楽しかった
Q6 次回の参加意思	1:はい 2:いいえ
Q7 鉄道の旅は楽しかったか？	1:楽しくなかった～5:楽しかった
Q8 県内の新たな魅力に 気づけたか？	1:気づけなかった～5:気づけた
Q9 今後も鉄道を使った旅をしたいか	1:そう思わない～5:かなりそう思う

1) Q2～Q4 について

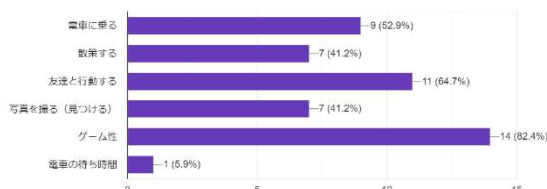
6.普段（山口県で）鉄道は利用しますか？
（一か月のうち）

17 件の回答



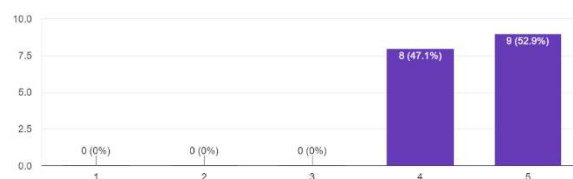
2.どの要素が楽しかったですか？

17 件の回答



1.この企画が楽しかったですか？

17 件の回答



3.鉄道の待ち時間での散策についてどう感じましたか？

17 件の回答

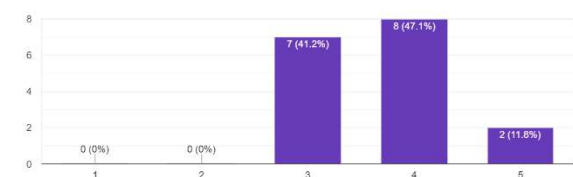


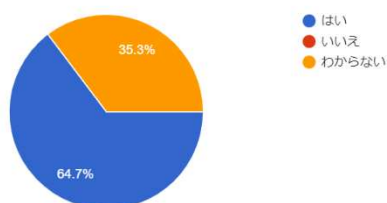
図 14 アンケート結果（Q2～Q4）

参加した学生の 7 割が日常的に鉄道を利用する頻度の少ない学生でした。その中でも、鉄道を使って山口県を回遊する本企画について参加した全員から「楽しい」という回答を頂きました。企画の楽しかった要素として、構成員でアイデアを検討し昨年度よりも要素をたくさん入れたゲーム性を一番評価して頂いたことは、大変うれしく思います。最後に、山口県に多く見られる長い待ち時間についても参加した学生さんからはマイナスの意見がなかったことも大きな特徴であると考え、本来大きなマイナスの要素となりうる待ち時間も使い方（地域の散策）次第で、大きな利点になる可能性を感じました。

2) Q5～Q7 について

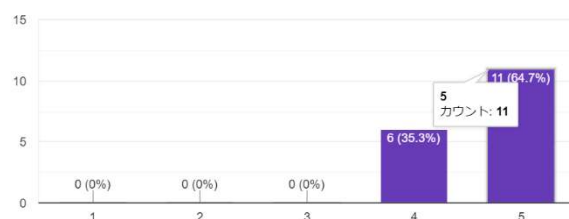
4.来年度も行う場合参加したいですか？

17 件の回答



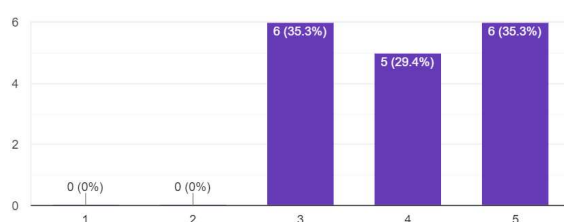
5.鉄道を使った旅は楽しかったですか？

17 件の回答



7.山口県の新たな魅力に気づけましたか？

17 件の回答



9.今後も鉄道を使った旅をしてみたいですか？

17 件の回答

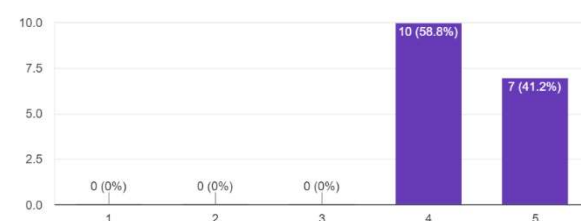


図 15 アンケート結果（Q5～Q7）

参加して頂いた学生は、日ごろ利用していない鉄道を利用して山口県の新たな魅力を発見するきっかけになったと考えます。鉄道を使って、地域を知っていただき今後も友人たちと旅に出て県内を知っていただきたいと思います。昨年度から企画を実施しておりますが山大生は多くは、鉄道に乗るキッカケづくりをすれば多くの学生が鉄道を使った観光をするのではないかと考えます。コロナウイルスの猛威も収まりつつある現状において積極的に鉄道で山口県の魅力発信を行って頂きたいと考えます。

10. 感想

昨年度は参加者を集めることに大変苦戦いたしましたが、今年度については早い段階で参加者を確保することが出来ました。昨年度も参加して頂いた学生さんにも参加していただきリピーターになっていただいたことは大変嬉しく思います。また、新規性の部分での事業者様との連携についても 5 つの事業者様と 100 名を超える写真投票にご協力いただいたことは私自身も驚きでした。今後も多くの事業者様と鉄道や公共交通の利用促進に向けて、事業を実施して山口大学生がより公共交通に利用しながら山口県の魅力を発見し、共有して頂けるように尽力していきたいと考えます。

11. 謝辞

最後に、おもしろプロジェクト様、JR 西日本様、ぼんの時間様、河村酒場様、ジェリーズポップコーン様、楠クリーン村様、写真投票にご協力いただいた方をはじめ、私たちにこのような素晴らしい活動を行う企画を与えて下さった皆様に感謝申し上げます。